

## 令和5年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

### ■調査概要

助成団体	特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会
事業細目名	スポーツ教室、スポーツ大会等開催(スポーツ)
事業名	神宮外苑チャレンジフェスティバル第41回J B M Aユニファイドラン
助成金額	5,674,000円

### ■調査内容

令和5年度スポーツ教室、スポーツ大会等開催(スポーツ)助成を受け、「神宮外苑チャレンジフェスティバル第41回J B M Aユニファイドラン」を11月26日(日)に開催した特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会の調査を実施しました。

本大会は、1984年の協会設立以来40回を超えて実施されている、視覚に障がいのあるランナーと障がいのないランナーが共にランニングを楽しむことができる、ノーマライゼーションを具現化した数少ない大会です。開催当初は、視覚に障がいのあるランナーが自由にランニングに取り組むことができる環境作りを目指して開始されました。

例年は一般道を含んだ神宮外苑コースが使用されますが、今年度は神宮外苑近辺の工事の影響により、国立競技場内において5kmと10kmに分けてレースが開催されました。国立競技場内での開催は初めての試みのため、コース設定等の苦労があったとのこと。当日のレースでは、「視覚障がいの部」(伴走あり・なし含めて)8カテゴリー、「知的障がいの部」及び「一般の部」各4カテゴリー全ての参加者が一斉にスタートし、各カテゴリー内の上位を目指し、または日頃のランニングの成果を発揮する場として、霧雨の中でもレースを楽しむ様子が見られました。

参加者が多様であるため、当日の運営時に起こる不測の事態に備え、準備段階では国立競技場内での安全なコース設定を行い、当日は関東学生陸上競技連盟や連携する大学運動部の協力を得て、各所に補助スタッフやボランティアスタッフを配置する等、大規模な大会でも安全に運営するための工夫が随所で見られました。また、伴走ボランティアの育成を行う等、視覚障がいのランナーが安心して競技に取り組むことのできる環境整備への工夫も窺えました。

本大会が、視覚障がいのあるランナーが成果を発揮できる場としてあり続けると共に、ノーマライゼーションを実現した大会として更に発展すること、また、日本ブラインドマラソン協会が本大会を開催する団体として、共生化社会の発展の一助として今後も寄与されることを楽しみにしています。

(令和5年11月26日往査)

(写真) 神宮外苑チャレンジフェスティバル第41回 J BMAユニファイドランの様子

